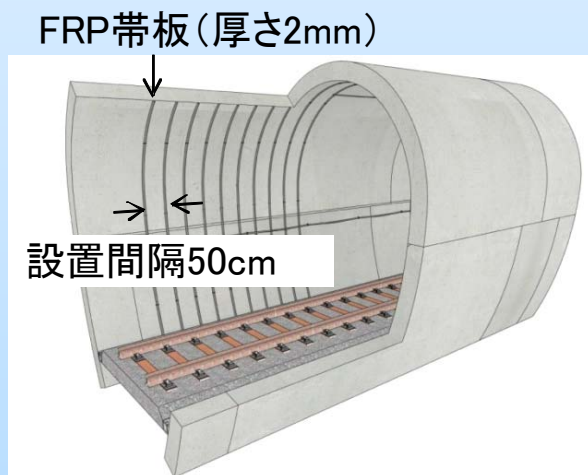


トンネル覆工帯板接着工法

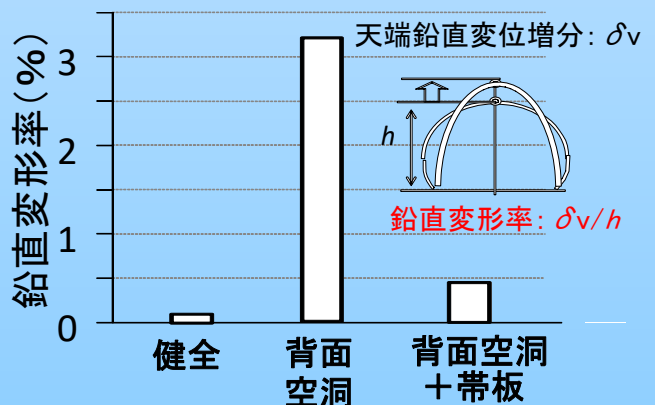
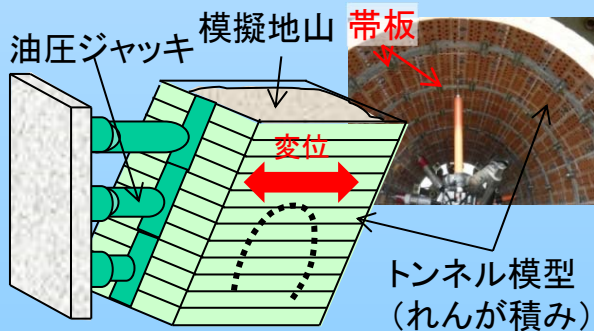
トンネル研究室

- 概要**
- ◆ FRP製の帯状のプレートをパテ状接着剤により覆工に接着し、必要に応じて帯材の間にネットや繊維シート等を施工するトンネル補強・修繕工法です。
 - ◆ FRP帯板により覆工の変形性能が増加し、耐震性の向上が期待できます。また、帯材およびその間に設置するネットや繊維シート等により剥落防止の効果が得られます。
- 特徴**
- ◆ 剥落防止と変形性能の向上の両方を兼ね備えています。
 - ◆ 帯板をパテ状接着剤で接着する工法であることから、不陸に強く、施工性が良好です。
 - ◆ 内空の阻害は3mm程度で済みます。
 - ◆ ケーブル等の添架物がある場合でも、10mm程度以上の離隔があれば施工可能です。
 - ◆ 施工後も覆工表面の検査が引き続き可能です。
 - ◆ バサルト帯板(玄武岩由来のバサルト繊維を樹脂で成形した製品)※を用いれば、非導電性であり、かつ、線膨張係数がコンクリート、鋼板とほぼ同等です。
- 工期と工費** 施工条件により工期・工費は変わります。詳細は別途ご相談ください。

工法の概要



耐震性の向上



れんが積みトンネル覆工模型のせん断土槽実験により、耐震性能の向上を確認しました。

※ バサルト帯板接着工法は、戸田建設(株)、(株)有沢製作所との共同開発技術です。